

オイスカ高校生 地元企業「知久」を取材！

「知久」の魅力を逆プレゼン オイスカ高「学生記者」企画



知久の社員室に、魅力を「逆プレゼン」した生徒ら＝浜松市中央区桜台の知久で

オイスカ浜松国際高校の生徒が、授業の一環で記者として地元企業を取材し、企業の魅力をブログ形式にまとめて伝える企画が2月26日、弁当・総菜製造販売の「知久」（浜松市中央区桜台）であった。

生徒は知久が運営する知久屋で販売する総菜を下処理、製造する本社工場を10月に訪問。保存料やアミノ酸を含む調味料を使わないなどの特徴を取材した。この日は「学生記者が企業に『逆プレゼン』」と題して、知久の魅力を社員らに発表。「健康第一に安心して食べられるお総菜を大切にしているお店」と写真を交えて伝えた。

発表した2年の松本惇平さん(17)は「学校の近くに知久屋の店舗があって、食に興味があったので取材先に選んだ。手作業が多く、おいしさの理由だと思っただ」と振り返った。同社の

内山知穂さんは「高校生がこんなうれしい」と期待し食に向き合うきっかけになった。(小崎一葉)

エネジンはオイスカ高校の生徒と、浜松市内中小企業の魅力を市内外にブログ発信するPR活動を共同で取り組んでいます。今回の「逆プレゼン」は、エネジンが大切にしている「地域社会の発展」や「次世代育成」という理念と深く共鳴するものです。特に、生徒さんが「食の安全」や「手作業の温かみ」に着目した点は、私たちがお届けするエネルギーや暮らしのサービスにおいて「安心・安全」を最優先する姿勢とも重なります。このような活動は、生徒さんが地元企業の素晴らしさに気づき、将来的に地域で活躍するきっかけになると確信しています。また、受け入れ企業様にとっても、若者の純粋な視点は新たな気づきやモチベーション向上につながるはずです。エネジンは今後も、地域に根差す企業として、学校と地域企業をつなぐ架け橋となり、未来を担う若者が地域に誇りを持てるような環境づくりに貢献してまいります。

